

新規 UNICEF プロジェクトの立ち上げ(プレスリリースの発出)

2020/5/10

今年1月、日本は令和元年度補正予算により、UNICEF 事業「ヨルダンにおける脆弱な女性及び少女の強靱性強化に関するセクター横断的対応」に対する約227万ドルの支援を決定し、5月10日、プロジェクトの立ち上げに際して、UNICEFと共同プレスリリースを発出しました。

我が国はシリア危機勃発以降、継続的に UNICEF ヨルダン事務所が実施する保健・栄養支援、子どもの保護、水・衛生(WASH)、社会保護分野に関するプロジェクトを支援してきており(緊急援助を含め支援総額は約3600万ドル)、本プロジェクトもその一環として、同分野での支援が実施されます。

柳駐ヨルダン大使は、「日本は、困難な時期においても、友人としてヨルダンに寄り添っていく。我々は、脆弱なヨルダン人や難民に対し、保健・医療、水衛生及び保護といった分野で人道支援を行ってきた UNICEF の活動を重視している。新型コロナウイルスの感染拡大の脅威が迫る現状において、特に保健や水衛生分野での人道支援の強化は不可欠であり、日本の支援がこの前例のない危機に対処し、難民キャンプやホストコミュニティにおける感染リスクを軽減することに役立つことを願う。」と述べました。

シャパイサ UNICEF ヨルダン事務所長からは、「日本は長年にわたる UNICEF のパートナーであり、今回の日本からの支援により、難民キャンプで保健省が実施する医療及び栄養サービスの努力を強化するとともに、難民キャンプやホストコミュニティでの子どもや母親への予防接種の実施等、ヨルダン国内の脆弱な子どもたちへの支援の継続が可能となる。」として、日本国民への謝意を表明されました。

